

# 令和2(2020)年度 病害虫発生予報 第9号

令和2(2020)年12月18日  
栃木県農業環境指導センター

## 施設内の栽培環境を適正に保ち、病害虫の発生を抑えましょう。

予想期間 12月下旬～1月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

### 1 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 ・発生：**少ない**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は少ない(平年比0%：ほ場率)。(－)  
・向こう1か月の降水量は少ない～平年並、日照時間は多い見込み。(－～±)
- (3) 対 策 ・下葉を除去し、風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。  
・発病した果実、果梗等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。  
・発生初期に、セイビアーフロアブル 20等を葉裏にもよくかかるように散布する。曇雨天時には、くん煙剤を使用する。
- (4) 備 考 ・[灰色かび病薬剤感受性結果①](#)、[②](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

### 2 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 ・発生量：**少ない**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は少ない(平年比0%：ほ場率)。(－)  
・向こう1か月の降水量は少ない～平年並、日照時間は多い見込み。(－～±)
- (3) 対 策 ・軟弱徒長すると発生しやすくなるので、適正な温度管理やかん水を行うなど、ほ場管理に留意する。  
・発生を予防するため、硫黄粒剤でくん煙する。  
・発生初期に、パンチョTF顆粒水和剤等を葉裏にもよくかかるように散布する。曇雨天時には、くん煙剤を使用する。
- (4) 備 考 ・硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるため、天敵を導入した場合は長時間のくん煙処理は避ける。

### 3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比90%：ほ場率、平年比84%：株率)。(±)  
・向こう1か月の平均気温は低い～平年並だが、日照時間が多いため、施設内の温度は上がりやすい見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。  
・気門封鎖剤や天敵製剤を活用することで作全体の化学農薬の散布回数を減らし、ローテーション散布を行うことで抵抗性の発達を抑制する。  
・気門封鎖剤は5日程度の間隔をおき、複数回散布する。  
・葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・[ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

### 4 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 ・発生量：**やや少ない**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや少ない(平年比49%：ほ場率、平年比50%：株率)。(－)  
・向こう1か月の降水量は少ない～平年並、日照時間は多い見込み。(－～±)
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、施設内の湿度低下に努める。  
・発病葉、発病果や花弁は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。  
・予防を主体にフルピカフロアブル等を葉裏にもよくかかるよう散布する。  
・発生が見られたらピクシオDF等を散布する。
- (4) 備 考 ・[灰色かび病薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

## 5 トマト 葉かび病

- (1) 発生予想 ・発生量： **やや少ない**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや少ない（平年比 52%：ほ場率、平年比 0%：葉率）。（－）  
・向こう 1 か月の降水量は少ない～平年並、日照時間は多い見込み。（－～±）
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、施設内の湿度低下に努める。  
・草勢低下は発生を助長させるので、適正な肥培管理を行う。  
・発病葉は伝染源となるため、発生初期に速やかに取り除き、施設外で処分する。  
・予防を主体にベルコートフロアブル等を葉裏によくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・抵抗性品種に発病するレースが確認されているため、抵抗性品種を栽培しているほ場でも、発生に注意する。[葉かび病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

## 6 には 白斑葉枯病

- (1) 発生予想 ・発生量： **平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並（平年比 124%：ほ場率、平年比 23%：株率）。（±）  
・向こう 1 か月の降水量は少ない～平年並、日照時間は多い見込み。（－～±）
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないように日中に適度な換気を行う。  
・捨て刈りした葉は伝染源となるため、施設外に持ち出し、適切に処分する。  
・発生初期に、ストロビーフロアブル等を使用する。

## 7 その他の病害虫

| 作物名  | 病害虫名   | 現況  | 発生予想       | 作物名  | 病害虫名   | 現況  | 発生予想       |
|------|--------|-----|------------|------|--------|-----|------------|
| いちご  | アブラムシ類 | 平年並 | <b>やや多</b> | きゅうり | うどんこ病  | 少   | <b>少</b>   |
|      | アザミウマ類 | 平年並 | <b>やや多</b> |      | コナジラミ類 | 平年並 | <b>やや多</b> |
| トマト  | すすかび病  | やや少 | <b>やや少</b> | には   | アザミウマ類 | やや多 | <b>やや多</b> |
|      | 黄化葉巻病  | やや多 | <b>やや多</b> | きく   | 白さび病   | やや少 | <b>やや少</b> |
|      | コナジラミ類 | 平年並 | <b>やや多</b> |      | ハダニ類   | 平年並 | <b>やや多</b> |
| きゅうり | べと病    | 少   | <b>少</b>   |      |        |     |            |

### ○ イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率及び越冬前密度調査結果について

本年 11 月に実施した、ヒメトビウカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の調査結果は、県平均が 5.0% でした。県南部で防除が必要とされる 10% を超える地点が 1 地点確認されましたが、全体的に低く推移しています。越冬前密度調査ではウヅカ類幼虫密度がやや少ない状況です。詳細は当センターHPに掲載中の[植物防疫ニュースNo.14（水稲：イネ縞葉枯病）](#)を参照。

- RAC コードを参考に、同一系統の薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。
- 花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。
- 11 月 1 日から 1 月 31 日は、「栃木県農業病害防止運動期間」です。農業は適正に管理し、容器のラベルをよく読み、正しく使いましょう。

### 1 か月気象予報（予報期間 12 月 19 日から 1 月 18 日 12 月 17 日気象庁発表）

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。向こう 1 か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに 40% です。降水量は、平年並または少ない確率ともに 40% です。週別の気温は、1 週目は、平年並の確率 50% です。2 週目は、平年並または低い確率ともに 40% です。

#### 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

| 項目   | 低い（少ない） | 平年並 | 高い（多い） |
|------|---------|-----|--------|
| 気温   | 40%     | 40% | 20%    |
| 降水量  | 40%     | 40% | 20%    |
| 日照時間 | 30%     | 30% | 40%    |

詳しくは農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「[栃木県農政部 \(@tochigi\\_nousei\)](#)」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jpnpn.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。